

（訪問資料②は、全てA4片面印刷とする。）

## 平成27年度 学校訪問資料②

学校名 胎内市立きのと小学校	Tel 0254(46) 2025	学級数 7	研修日 ① 月 日 ( ) ② 月 日 ( ) ③ 月 日 ( )
----------------	-------------------	-------	-----------------------------------

1 取組分野 (3枚中の1枚目)

共に尊重し合う人間関係作り (豊かな心の育成 いじめや差別のない学校)

2 前年度の成果と課題

成 果	<p>○ソーシャルスキル等を用いてよりよい言葉づかいを具体的に示し、記述による個々の振り返りを大切にしてきたことで、相手を思いやる言葉づかいを意識するようになってきた児童は多い。また、主な行事やなかよし班活動に合わせて実践したことで、具体的なめあてをもち活動する児童の姿が多く見られた。</p> <p>○なかよし班活動では、振り返りの場を掲示物やカードへの記入、班での評価など、活動に合わせて行ったことで、互いのよさを実感し合い児童一人一人の自己有用感を高めることができた。</p> <p>○担任だけでなく級外職員も入り、全職員がかかわる人権教育、同和教育を実践することができた。授業に入教するだけでなく、児童の学校生活におけるわずかな変化に対し、複数の職員の手で児童一人一人を見守る、かかわる教育ができつつある。</p>
課 題	<p>○「相手を思いやる言葉づかい」をする子どもの割合は、年度末のアンケートで児童95.1%（昨年度95.5%）、教師の見取りはA評価57%であり、昨年度よりも肯定的評価が多少下がっている。依然として児童と教師の評価に開きが生じている原因として、学年、もしくは個における働き掛け（指導）が必要になってきていることが分かる。年度途中から、言葉づかいだけでなく、「相手を思いやる言動の振り返り」としたことで、言葉と行動が連動して児童の思いやりの心を育めるよう継続中である。「相手を思いやる言葉づかい」については、まず、第一段階として、日常生活で丁寧な言葉づかいができるように意識させる（教師や上の学年に対する言葉づかいも含めて）。併せて、計画的にソーシャルスキルを取り入れる。言葉によって、温かい気持ちになったり、お互いのよさに気付いたりすることを、振り返りの場を設けて児童に気付かせる。</p> <p>○リーダーとなる6年生の負担が大きい。行事の精選や計画段階での見直しを行うことで、児童の成長の場と負担軽減を併せて考慮していく。</p> <p>○人権教育、同和教育を年間指導計画に基づき実施できるよう、年度始めに、確認と準備を行う。</p>

3 評価項目・評価基準

	成 果	教 育 活 動	運 営 活 動
評 価 項 目	<p>【年度当初】</p> <p>◎相手を思いやる言葉づかい（感謝する・気づかう・ほめる・励ますなど）をする子どもの割合80%以上を目指す。</p> <p>・なかよし班活動及び学年</p> <p>○友だちと仲良く活動している子どもの割合80%以上を目指す。</p>	<p>【年度当初】</p> <p>◎相手を思いやる言葉づかいについて自己評価を行う。</p> <p>・なかよし班活動実施後の振り返りカード</p> <p>・児童アンケート</p> <p>○人権教育、同和教育の視点に立った道徳授業後に、学んだことを文章にまとめる。</p>	<p>【年度当初】</p> <p>◎なかよし班活動を、前期、後期2回以上設定し、事前に言葉づかいに対してのソーシャルスキルトレーニングを取り入れる。</p> <p>○人権教育、同和教育の視点に立った道徳授業を年間指導計画に位置づけ実施する。</p>
評 価	<p>A：80%以上</p> <p>B：70%以上</p> <p>C：70%未満</p>	<p>A：前期2回、後期2回実施</p> <p>B：前期1回、後期1回実施</p> <p>C：未実施</p>	<p>A：前期2回、後期2回実施</p> <p>B：前期1回、後期1回実施</p> <p>C：未実施</p>
基 準	<p>A：80%以上</p> <p>B：70%以上</p> <p>C：70%未満</p>	<p>A：全学年で実施</p> <p>B：4、5学年で実施</p> <p>C：3学年以下</p>	<p>A：全学年で実施</p> <p>B：4、5学年で実施</p> <p>C：3学年以下</p>